

平成28年度入試【推薦入試Ⅰ】

小論文

(総合理工学部 地球資源環境学科)

注意

- 1 問題紙は、指示があるまで開いてはならない。
- 2 問題紙 1ページ、解答用紙 2枚である。
指示があつてから確認し、解答用紙の所定の欄に受験番号を記入すること。
- 3 解答は、すべて解答用紙の所定のところに記入すること。
- 4 解答用紙は持ち帰ってはいけない。
- 5 問題紙は、持ち帰ること。

地球資源環境学科 小論文 問題

現在、日本で一番多く使われているエネルギー資源は石油です。石油は火力発電のための燃料やガソリン、灯油などの原料として、大きな役割を果たしています。しかし、地球上での石油の埋蔵量には限りがあり、このまま使い続けるといつかはなくなってしまう資源です。エネルギー資源として、また工業原料としても石油に大きく依存している現代文明にとって、石油の枯渇は深刻な問題です。

地球上に存在する石油の総埋蔵量のうち、採算が取れると判断される埋蔵量を可採埋蔵量と呼びます。可採埋蔵量を1年間の石油生産量で割ったものが可採年数です。可採年数は1990年頃から現在までの間では40~50年で推移しています。もし、今の状態で石油を生産し、使用を続けると、40~50年後には石油は枯渇してしまうことになります。

このような状況のもと、現代文明を維持し、さらに発展させていくために、わたしたちの社会が行わなければならないことにはどのようなことがあるか、考えられる方策をすべてあげ、理由をつけて説明しなさい（解答用紙2枚以内）。